

実はもうやっている？
だれでもできる！

個別最適な学びと協働的な
学びの一体的な充実

～家庭科編～



東葛飾教育事務所

実はもうやっている？だれでもできる！

個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実

家庭科編です。

個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実は、題材を通して意識するだけでなく、1単位時間の授業の中でも意識していくことが大切です。

「生活に必要な住空間」 家族の変化と心地よい空間の使い方（中学校）

【学習問題】

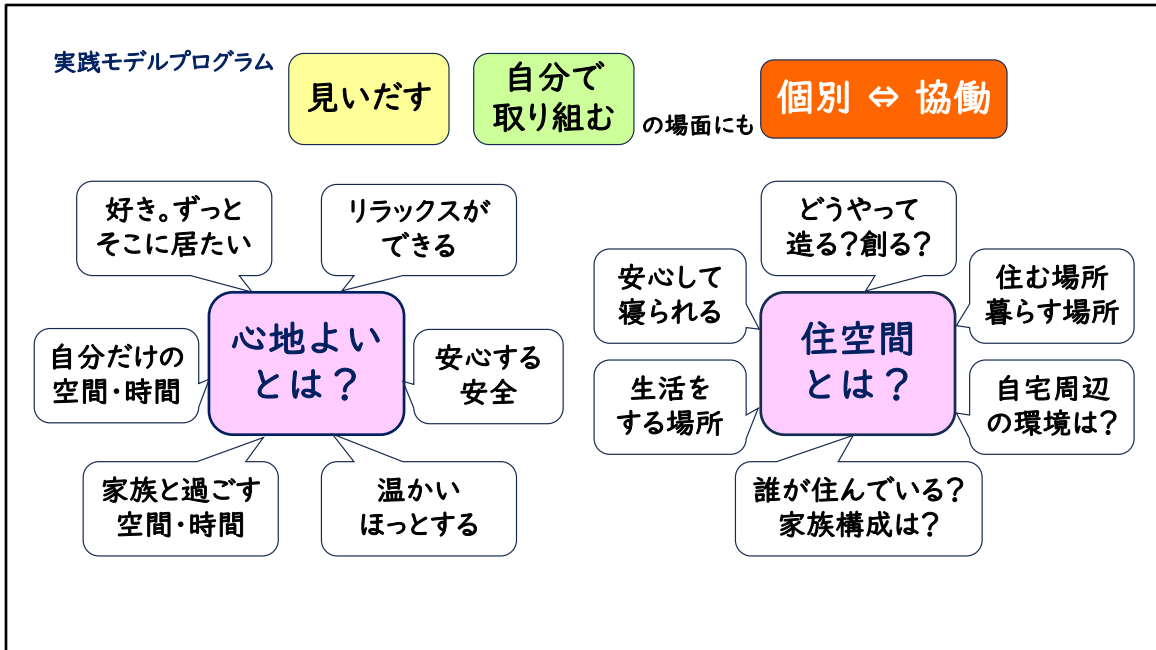
「住み続けたい」と思える、心地よい住空間にするにはどうしたらよいだろうか

- ・課題とゴールが明確に示されている
- ・知識を活用し、思考したり判断したりする場面がある
- ・児童生徒が自分の生活と結びつける場面がある

今回は、中学校「生活に必要な住空間」家族の変化と心地よい空間の使い方を例に考えていきます。

学習問題は、児童生徒が、今日の1時間をイメージするための大切な入口です。課題とゴールが明確に示されると、児童生徒の思考がぶれず、集中して学びと向き合うことができます。

また、全員が同じ視点を持つことで対話が生まれ、学びを深めることができます。



「見いだす」「自分で取り組む」場面では、これまでの学習や経験、資料、友達との対話から生まれた疑問をもとに、本時の学習計画と学習課題を確認します。

個別で取り組んでいるように見えるこの場面にも、実は協働的な学びが存在しています。

私たち教師は、児童生徒が必要な資質・能力を身に付けるために必要な環境を設定し、学びに向かう力を引き出します。

実践モデルプログラム

自分で
取り組む広げ
深める

の場面にも

個別 ⇄ 協働

A:心地よい住空間ってなんだろう。
 B:私は、自分の家が好きだよ。だって、部屋で好きなことができるから。
 C:僕の家は、弟がうるさくて困る。間違っ
 て口に入れたり落としたりしたら危ないって物を置く場所も注意されるし、階段に柵もあって、開けたり閉めたり大変。
 A:うちは、おばあちゃんが来てから、階段に手すりを付けたよ。時々、私も使ってる。
 C:家ってだんだん変わっていくのかな？
 B:高齢者施設ってどうなってるんだろう。
 A:少し調べてみる？

C:保育施設は、広いスペースがある。子供が動き回れて、その様子を見守れるように安全性と快適性に配慮してるらしい。
 B:高齢者施設は、廊下が広くて段差がない。安心して暮らせることが大事なんだって。
 A:安全面はどちらも共通だね。プライバシーを守れる空間も大人には必要だよな。
 B:確かに。急に親が部屋にきたら嫌だもん。
 C:まあ、リビングならご飯を食べながら家族と話すのもいいけどな。
 A:心地いいってそういうことなのかな。それなら… （対話は続く）

こちらの会話をご覧ください。

お互いの考えをもとに対話が生まれています。

協働的な学びの場面では、対話によって視野が広がったり思考が深まったりすることが大切です。

協働的に学ぶことで、学習課題の解決に近づいたり、新たに知りたいことが生まれたりしながら、再び個別の学びに戻っていきます。

このように、個別最適な学びと協働的な学びは、何度も繰り返され、個の学びが深まっていくことが重要です。

実践モデルプログラム

広げ
深めるまとめ
あげる

の場面にも

個別 ⇄ 協働

- ・これまでの学習や経験と結びつけた思考
(情報の収集・分析、比較分類→共有→考えの形成)
【共感的な人間関係、安全・安心な風土】
- ・新たに生まれた疑問、もっと知りたいという好奇心
(ICT、本、自宅の間取り図
→施設見学、利用者や設計士へのインタビューなど)
【自己決定、自己存在感】

学びの深まり + 多様な視点の獲得 ⇒ 主体的な学び

「まとめあげる」場面では、自分の言葉でアウトプットすることが重要です。

個別最適な学びと協働的な学びを繰り返す中で、考えたこと、新たに生まれた疑問や興味を視覚化することで、客観的に自分自身の学びを振り返り、整理することができます。

まとめあげた中に、児童生徒自身が「学びの深まり」や「見方・考え方の広がり」を意識できたとき、達成感を感じ、満足感や新たな学びの意欲が高まります。

そのためにも、学習問題とゴールを明確に示すことが大切です。

また、生徒指導提要「生徒指導の実践上の4つの視点」に示される「自己決定の場」や「一人の人間として大切にされている」という自己存在感を実感することも大切です。

自分の考えを安心して話すことができる安全な環境と共感的な人間関係が学びを深めていきます。

ルーブリック評価例【思考・判断・表現】

「住み続けたい」と思える、心地よい住空間にするにはどうしたらよいだろうか

	A	B	C
生活の中から問題を見いだす。	自分の経験とこれまでの学習、地域の実態から課題を見いだしている。	自分の経験とこれまでの学習から課題を見いだしている。	自分の経験から課題を見いだしている。
住空間の整え方について考え、工夫している。	防災や安全に加え、生活文化の継承の視点から住空間の整え方について考え、具体例を示しながら新たな視点で改善しようとしている。	自然災害の視点や幼児、高齢者の特徴から安全な住空間の整え方について考え、改善しようとしている。	自分の経験や他の生徒の意見を参考に、住空間の整え方について考え、改善しようとしている。

最後に評価についてです。

題材や1単位時間の初めに、児童生徒と「何を学び」「どんな力を身に付けるのか」について情報共有したことを振り返ります。

評価を明確にすることは、授業改善にもつながります。

目指した資質能力の育成と学びの姿が一致していたか、児童生徒も教師も必ず振り返れるようにしましょう。

今日は、1単位時間の中に見られる個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実について考えました。

授業の中には、常に個別最適な学びと協働的な学びが一体的に存在しています。

「教師が児童生徒に教える」ではなく、児童生徒と一緒に授業を創り、共に学ぶ存在としてつなぐことを意識した授業を先生方と一緒に目指していきたいと思います。